

平成29年舞鶴市議会意見交換会報告書

開催日時	平成29年4月27日(木) 午後6時57分から午後8時54分まで
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室
テーマ	舞鶴市議会の取り組みと議員定数について
参加市民 (敬称略)	各種団体の推薦による市民8人 藤原隆一 内海志伸 鈴木孝子 野村鶴子 足立徳仁 岡田一志 碓井華帆 殿西聡人
出席議員	議員15人(オブザーバー:上野議長) 岸田圭一郎(座長) 石束悦子 伊藤清美 今西克己 肝付隆治 小杉悦子 杉島久敏 鯛 慶一 谷川眞司 田村優樹 松岡茂長 松田弘幸 山本治兵衛 和佐谷寛
傍聴者数	15人
内 容	
<p><b>【概要】</b></p> <p>開会后、議長の挨拶に続き、議会の取り組みについてパワーポイントを用いて報告した後、議員定数について、各会派から現時点での考え方を発言し、参加者8人からのご意見等をお聴きした上で、意見交換を行った。</p> <hr/> <p><b>【議員定数について】</b></p> <p><b>1 各会派の現時点での考え方</b></p> <p>(創政クラブ議員団)</p> <p>定数については、確たる根拠がない中で、討論している。現段階では、現状維持、削減の二つの意見が出ている。現状維持については、他市に例をみない複眼都市を形成していることや国の出先機関があることから、類似都市とは大きく違う。会派では、議員は地域を代表して出てきているといった面を持っており、地域の課題を行政に届け、地域の安心安全、地域の発展等に関わることを考えれば現状維持との意見がある。一方、削減については、市民感覚の意見として削減し、若い方、子育て世代の方が、議会活動できるような環境整備が必要なため削減との意見もある。本日の意見を参考にし、現状維持か削減かは引き続き議論していく。</p> <p>(新政クラブ議員団)</p> <p>前回、2名削減があったが、その結果が出ていないもとの削減は時期尚早であるとか市民目線で考えたとき、他市との比較をした時に現在の議員定数は多いなどの意見があったが、再検討した結果、結論としては、定数削減やむなし。その方向で検討しているが、定数削減を確定したわけではない。また、具体的な削減数は決めていない。現時点の中間報告。市民目線から見て定数削減が妥当という意見が多数であれば、定数削減やむなし。現状維持が妥当という意見が多数であれば、その方向で再検討していく。今後、意見交換会の結果を参考に決めていく。</p> <p>(公明党議員団)</p> <p>意見交換会での意見を聞き、議会で議論を尽くしたうえで、最終的な結論を出す。昨今の状況から議会の果たす役割は一段と高まっている。民意を市政に反映させるためには、安易で急激な定数減は、少数意見が届きにくくなる恐れがあるため、慎重に検討す</p>	

べきと考えている。但し、それは議会自身が機能を発揮するために常に改革を行い、成果を上げていける議会でなければ意味をなさないというのが民意であると捉えている。その上で、人口減少に歯止めがかかっていない現状では、市民感情としては、定数削減を望む声が出るのは自然である。市民に理解され指示されてこそ、議会の活性化も進み、その機能も発揮されることから、一定の定数削減はやむを得ないと考えている。

#### (日本共産党議員団)

議員が多いとか少ないとかが問題ではなく、議員がどんな活動をしているかが問題。議員は、市民の意見をよく聞き、それを政策化し、提案すること。市長提案が、市民の福祉の増進にとってどうなのか、市民の立場に立って、市民目線でしっかりチェックしていく監視の役割も重要。議会が市民を代表し、審議する場である以上、全市民を代表するにふさわしい議員数が必要と考える。議員定数の削減は、多様な市民の意見を反映するという、本来議会が持つ機能を低下させ、結果として自治体を市民から遠ざける役割を果たすものとする。よって、議員定数は現状維持でよいと考えている。

#### (鶴翔会議員団)

前回の定数削減から人口が大幅に減少。人口減少からしても、現状では少し多いのではと考える。近隣自治体の定数を参考に適正な定数を考慮しても、削減の方向は避けられない状況。このようなことから、経費削減、適正な議員定数の見直しの方向性を認め、現時点では、定数減が望ましい。今後、本日の意見交換会での貴重な意見を参考に更に検討を重ねる。

## 2 市民からの意見

### (1) 削減すべきでないとの意見

- ・人口減からすると2減も考えられるが市民の声が届かなくなることを懸念する。歳費など議員の待遇面も考慮して考えるべき。
- ・定数減になることで私たちの声が届かなくなるようでは困る。無理のない方向でお願いしたい。
- ・主婦の感覚からすると歳出が減ることはありがたいが、定数減になると地域の声が届かなくなるのではないかと懸念する。
- ・議員は広い地域から幅広い年齢層の方々になっていただければ望ましい。議員の数だけで考えるのであれば絶対に多いほうが望ましい。
- ・現状維持でよいと思う。若い世代が魅力を感じるような職業にしてほしい。削減するなら議員報酬を上げるべきである。
- ・現状維持でよい。人口が減ることに比例して舞鶴市の問題が減ることもなく、もっと複雑な問題が出てくる。
- ・市民に寄り添うまちづくりができるようにすべきであることから、多くの目が必要であり、現状維持でよい。
- ・いただいた資料から見ると定数28人は多いように感じるが、市民の声を届けるといった意味では現状維持でよい。
- ・28人の議員でしっかりやれるならそれでよい。
- ・むやみに議員定数を減らすのはプラスにならない。
- ・人数が多いことは悪いことではない。
- ・市民から議員定数が多いといった意見が挙がっていないのなら現状維持でよい。

## (2) 削減すべきとの意見

- ・事前にいただいた資料を見ると人口や面積からしても2人減は仕方ない。26人になっても市民の声は十分に届くと考えることや、市の財政を考慮しても減らすべきである。
- ・2人減でも各党派が結束していれば十分やっつけていける。
- ・少ない人数でも他の市町村はやっている。舞鶴市でもできないことはない。歳費削減の意味からも負担が大きくなるが削減でよい。

## (3) 議員定数に係るその他意見・発言

- ・議員側から減らすべきとの意見が多いとは思わなかった。
- ・平成14年と22年に定数が削減されている。議会の運営上で不具合はなかったのか。
- ・定数減が進み、地元から議員が出せなくなった場合、どうやって市政に声を届けるのか。
- ・定数の問題は議員で決めればよい。
- ・議員定数については、各議員の良識ある判断に任せたい。
- ・なぜ定数減にしなければならないのか疑問である。
- ・議員報酬の市全体の予算に対する割合が少ないと感じた。

---

### 【その他意見】

- ・福知山市大江町の話の中で、議員を削減したら議員のいない地域が出来る可能性があるという発言があったが、それは違う。議員が責任を持ってしっかり議員活動をしていれば地域から議員は減らないし、地元も議員を支える。
- ・若い世代が多く参加できる取り組みで、より多くの意見が討論できる場が必要である。
- ・個人的には舞鶴市議会の活動はよく知らない。高専の学生の中でも同じような人が多い。
- ・選挙権を有する人はもっと議会に関心を持つべきである。
- ・若い世代の人は選挙の投票に行かないことが多いように思う。若い人へ投票の促進をすべきである。
- ・市民は、定数の問題よりも自分の老後のことを心配している。
- ・若い世代に市議会がどんな活動をしているのか情報が届いていない。情報環境の整備が必要である。

---

### 【意見交換のまとめ】

議員定数のあり方について、11月末までには結論を出すこととしているが、市民の皆さんからの貴重なご意見を参考にさせていただき、今後、議論を重ねることとする。